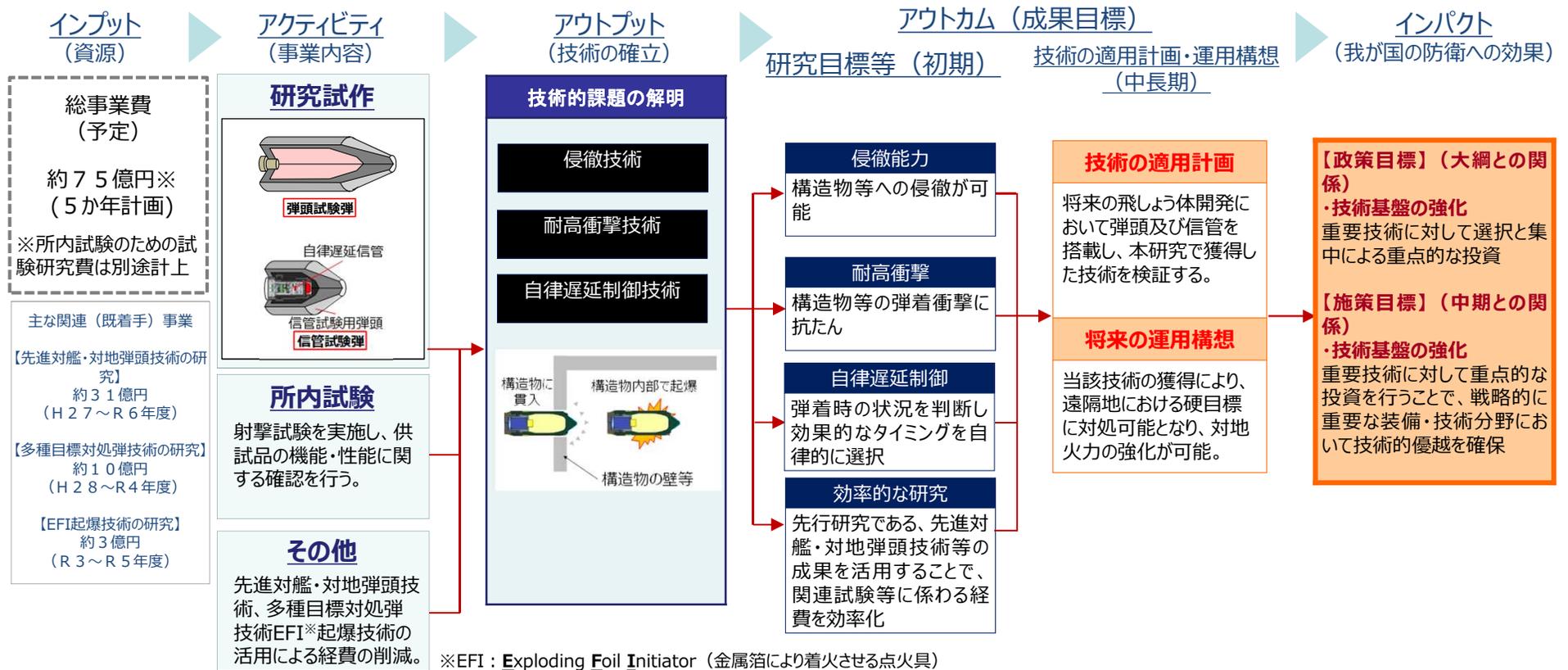


ロジックモデル(耐高衝撃弾頭技術の研究)

【事業の概要】

構造物等を占拠した敵部隊にスタンド・オフ火力等で対処するため、構造物等の内部まで貫入させた後に起爆させることが可能な耐衝撃性を有する弾頭及び信管に関する研究を行い、耐高衝撃弾頭に関する技術を確立する。

現状・課題 わが国島嶼が敵部隊によって占拠された場合、艦艇による対地射撃による敵部隊の制圧が期待されるが、対象が構造物等の場合には構造物内部で起爆する弾頭及び弾頭を起爆させる信管が必要である。これらは構造物等衝突時の高衝撃に耐える必要があるとともに、効果を最大限発揮するために適切なタイミングで起爆する必要がある。



< 研究開発実施線表 >							総合評価
年度	4	5	6	7	8	9	
実施内容		← 本事業 (研究試作) →		← 所内試験 →			構造物等への迎撃が必要となった場合への対応として、目標構造物等の内部に貫入させ起爆できる、耐衝撃性を有する弾頭及び信管に関する研究を早急に着手する必要がある。 また、先行研究の成果である耐衝撃技術、信号処理技術等を十分活用し、自律遅延制御方式を複合することにより、研究開発の効率化による早期装備化が期待できるため、本事業に着手することは妥当であると判断する。